

令和 5 (2023) 年度上半期実績と 主な取組について

令和 5 年 1 2 月 1 4 日 平塚市病院運営審議会
平塚市民病院



令和5年度上半期の取組

令和5年度上半期の取組 はじめに

令和5年度は病院の最重点目標として

「新入院患者数」（令和5年度目標値10,300人）

を達成するために取り組みました。

令和5年度上半期に取り組んだ内容

- ①高度医療機器の活用
- ②電子カルテ等のシステム更新（5月）
- ③看護フェスティバルの開催（4年ぶり）
- ④地域医療機関との連携強化
（当日紹介ホットライン再開、小児科ホットライン開設）
- ⑤平塚市民病院登録医の会を開催（4年ぶり）

手術用ロボット「hinotori」の上半期実績

令和5年4月～

ロボット前立腺悪性腫瘍手術の診療報酬算定開始
算定開始後：15件（うち市外1件）

令和5年9月～

ロボット仙骨腔固定術の診療報酬算定開始
算定開始後：2件（うち市外1件）

市外からの患者の受入れ

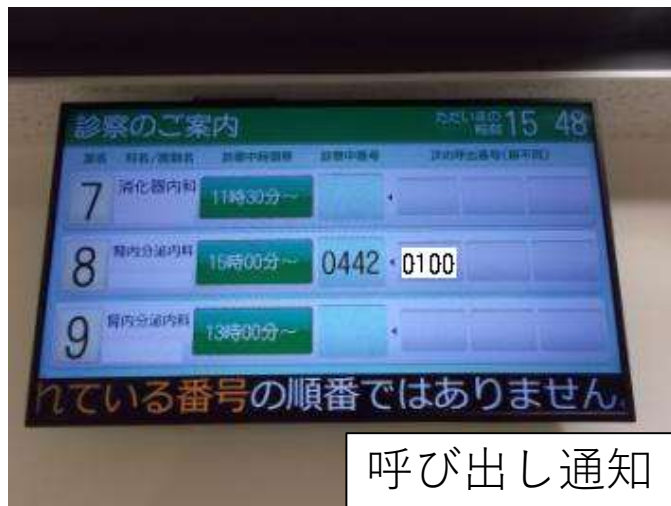


外来診察のスマホ通知機能の導入

5月～

外来診察で順番が近くなると

患者さんのスマホに通知



患者さんの「診察待ち時間」有効活用による患者サービスの向上

デジタル活用による業務効率化

5月～

●電子カルテ用スマホの導入

●スポットチェックモニタの導入

⇒手入力だった体温、血圧などを電子カルテに自動送信



電子カルテ用スマホ



スポットチェックモニタ

業務効率化による業務負荷軽減、働き方改革

③看護フェスティバルの開催

看護フェスティバルの開催（4年ぶり）

5月19日

院内で看護フェスティバル開催

※栄養指導、乳がんチェック、
骨折予防体操などを実施



市民、地域住民とのコミュニケーション機会の確保

ホットラインの充実

7月3日～

- 当日紹介ホットラインの再開
- 小児科ホットラインの開設

※既存の循環器ホットライン、脳卒中ホットラインに加え
更なるホットラインの充実

地域医療機関との連携強化

⑤平塚市民病院登録医の会を開催

平塚市民病院登録医の会を開催（4年ぶり）

9月20日

第4回 平塚市民病院登録医の会を開催

※令和元年度以来4年ぶり



地域医療機関とのコミュニケーション機会の確保

まとめ

今後

“選ばれる病院” となることで

新入院患者の更なる受入れに努めます。

令和5年度上半期実績

最初に

令和5年度は、引き続き

「新入院患者の確保」(R5年度目標:10,300人)

と

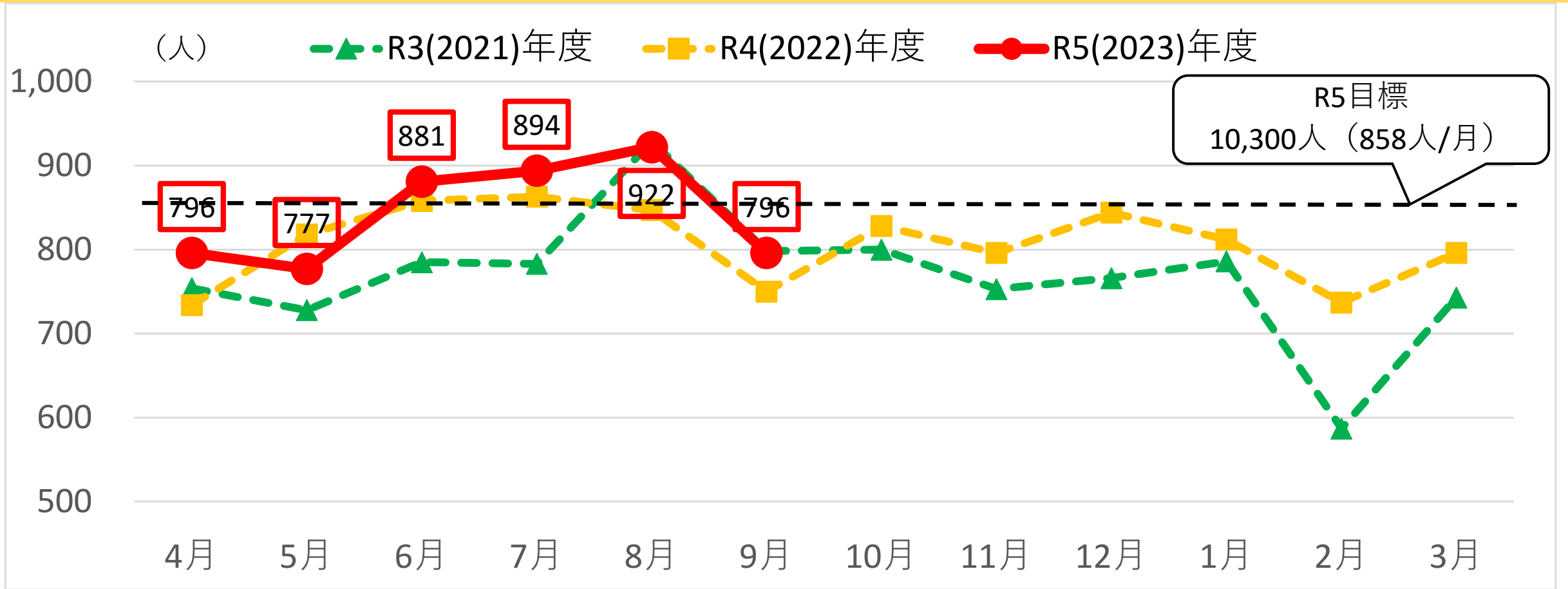
「DPC入院期間Ⅱを意識した在院日数管理」

を重視しました。

主な臨床指標の前年度比較

	令和4年度 上半期	令和5年度 上半期	差
新入院患者数	4,870人	5,066人	+196人 (+4.0%)
1日平均入院延患者数	303.7人	294.4人	▲9.3人 (▲3.1%)
1日平均外来延患者数	751.4人	753.8人	+2.4人 (+0.3%)
病床利用率(稼働病床ベース)	76.9%	79.2%	+2.3ポイント
手術件数	2,104件	2,031件	▲73件 (▲3.5%)
救急搬送件数	5,464件	5,217件	▲247件 (▲4.5%)
救急搬送入院患者数	1,629件	1,642件	+13件 (+0.8%)
紹介率	80.5%	86.3%	+5.8ポイント
逆紹介率	86.3%	86.4%	+0.1ポイント

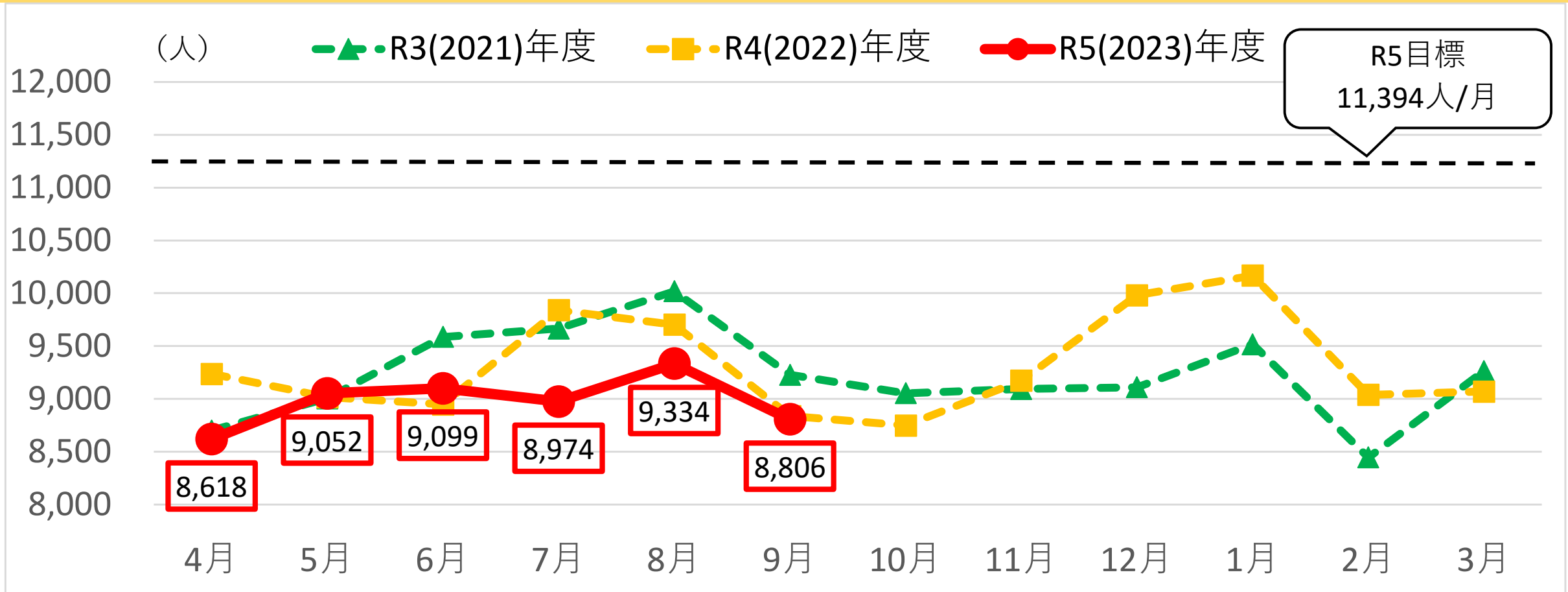
新入院患者数の推移



令和5年度は、令和4年度よりも新入院患者数が増加したが、
4、5、9月は目標未達成

令和5年度上半期実績（入院）

入院延患者数の推移

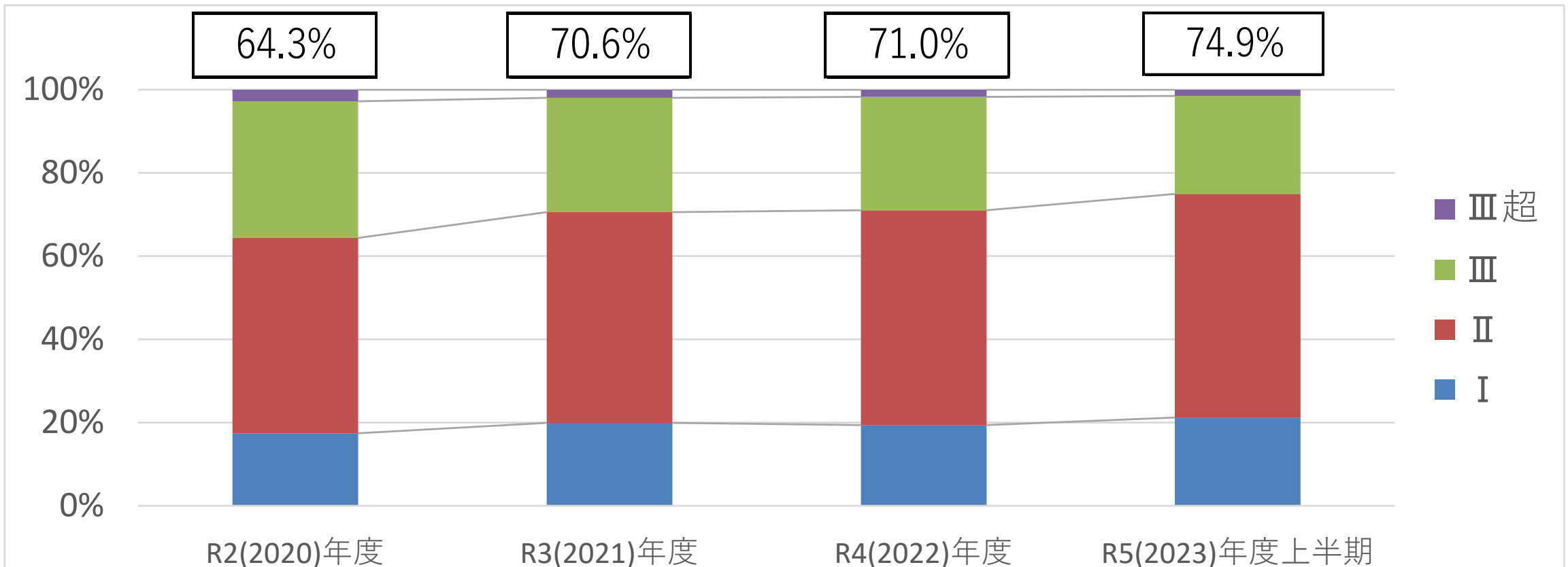


令和5年度の延べ患者数は、令和4年度より1,695人減少

D P C入院期間Ⅱ以内での退院率

D P C制度は、入院診療報酬請求の制度で、病名や手術の有無等により、分類わけされ、在院日数に応じて1日当たりの点数が定められている。入院期間Ⅱまでであれば、その治療に対する平均的な収入が得られる。

D P C入院期間Ⅱ以内での退院率が増加



令和5年度上半期実績（入院）

診療科別新入院患者数比較

R4-R5患者増減数が大きい診療科

	令和4年度 上半期	令和5年度 上半期	差	備考
病院全体	4,870人	5,066人	+196人 (+4.0%)	
消化器内科	590人	734人	+144人 (+24.4%)	
小児科	328人	396人	+68人 (+20.7%)	
呼吸器内科	76人	124人	+48人 (+63.2%)	常勤医師1人増
心臓血管外科	73人	53人	▲20人 (▲27.4%)	
外科	403人	362人	▲41人 (▲10.2%)	
産婦人科	481人	359人	▲122人 (▲25.4%)	常勤医師3人減

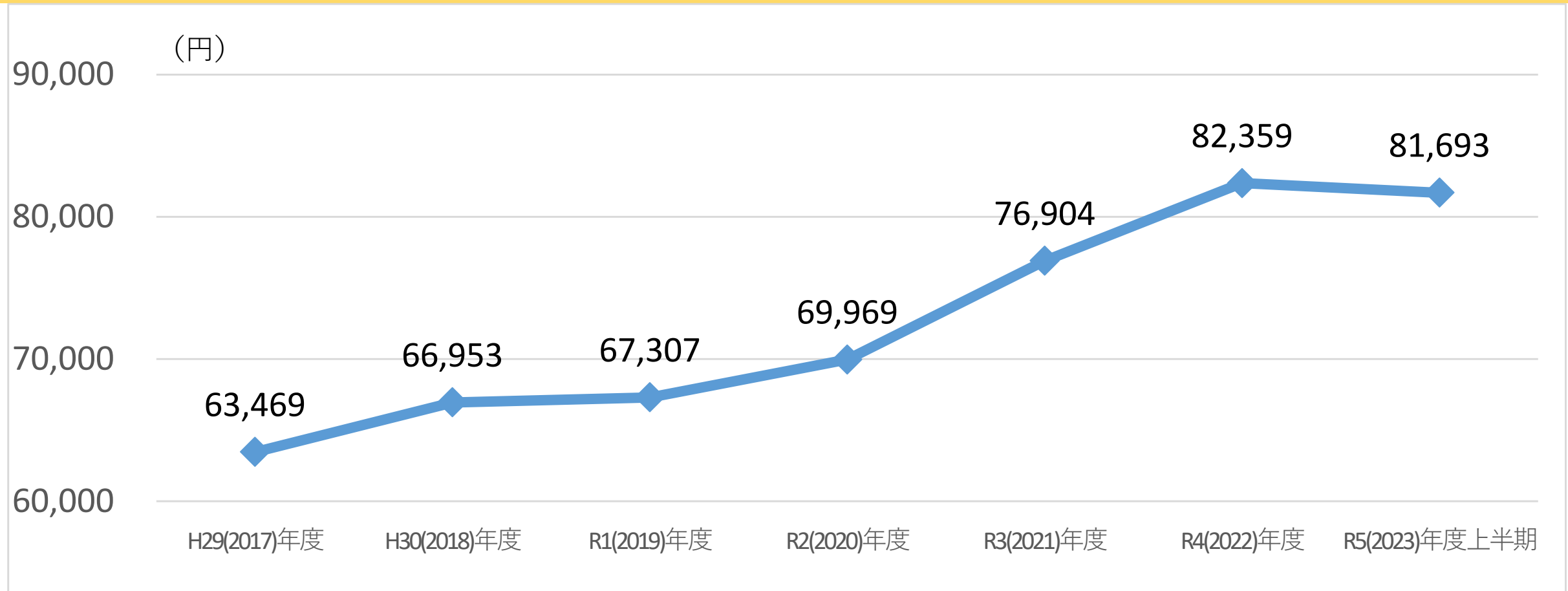
疾患別入院実患者数比較

R4-R5患者増減数が大きい疾患

	令和4年度 上半期	令和5年度 上半期	差
肺炎等	68人	121人	+53人 (+77.9%)
敗血症	22人	64人	+42人 (+190.9%)
乳房の悪性腫瘍	66人	102人	+36人 (+54.5%)
子宮頸・体部の悪性腫瘍	106人	75人	▲31人 (▲29.2%)
誤嚥性肺炎	184人	139人	▲45人 (▲24.5%)
その他の感染症	190人	108人	▲82人 (▲43.2%)

令和5年度上半期実績（入院）

入院診療単価の推移

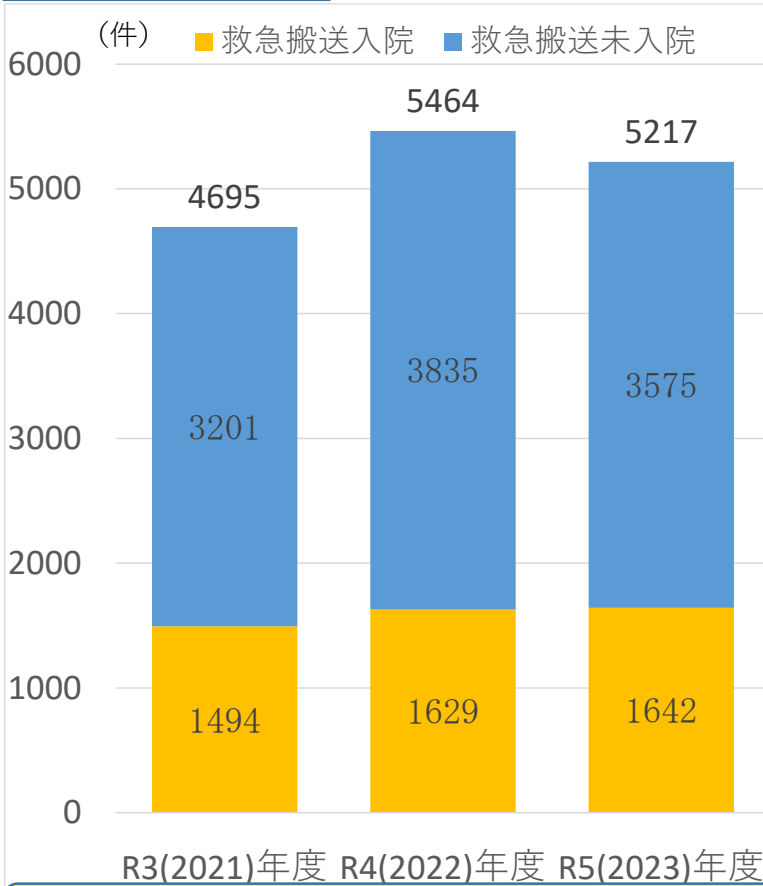


入院診療単価は微減、手術料が減少

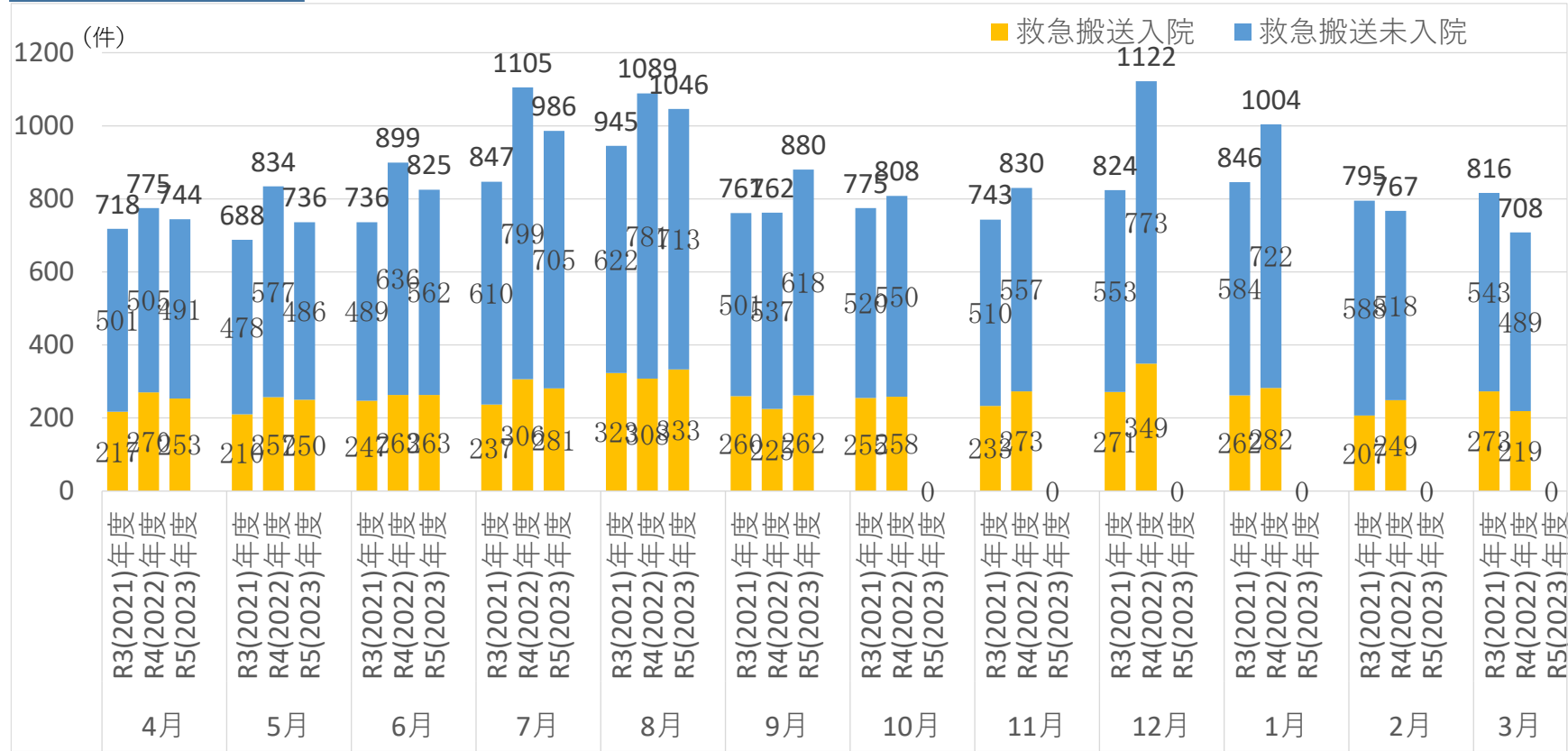
令和5年度上半期実績（入院）

救急搬送受入の推移

上半期実績



月別実績



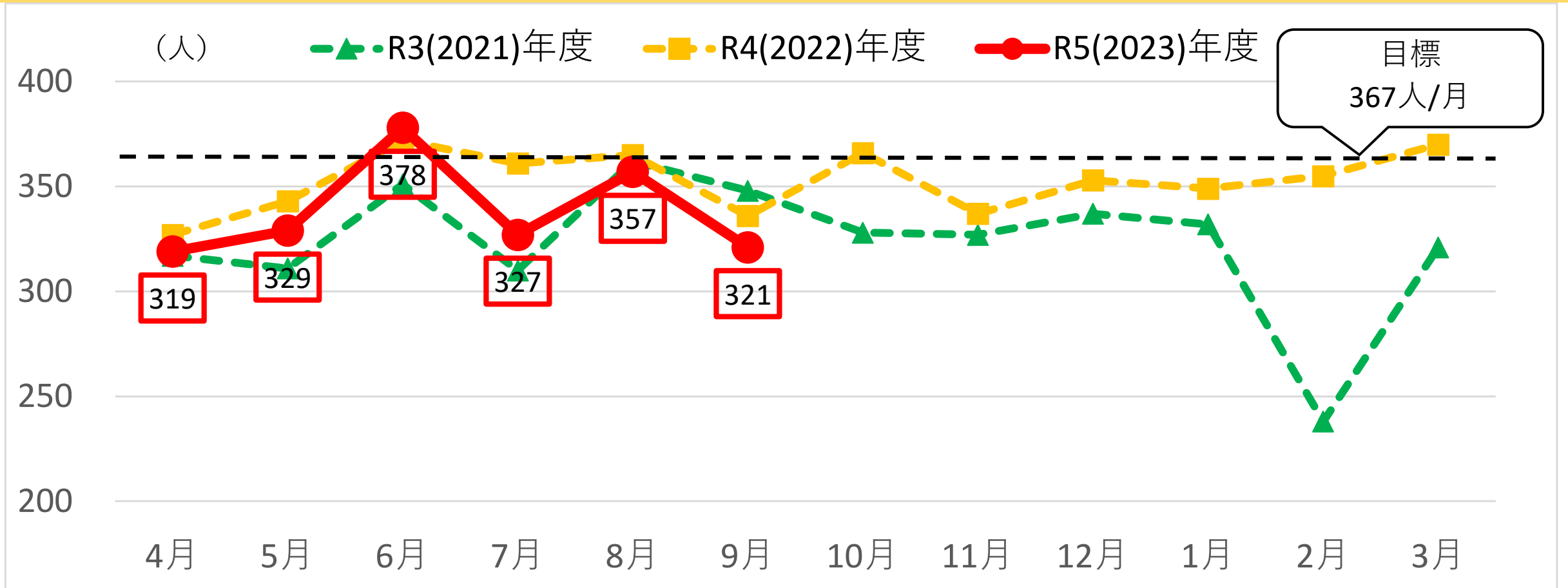
救急搬送入院率

29.8%(R4上) ⇒ 31.5%(R5上)

救急搬送件数が減少、救急搬送入院患者数が増加
救急搬送入院率は増加

令和5年度上半期実績（入院）

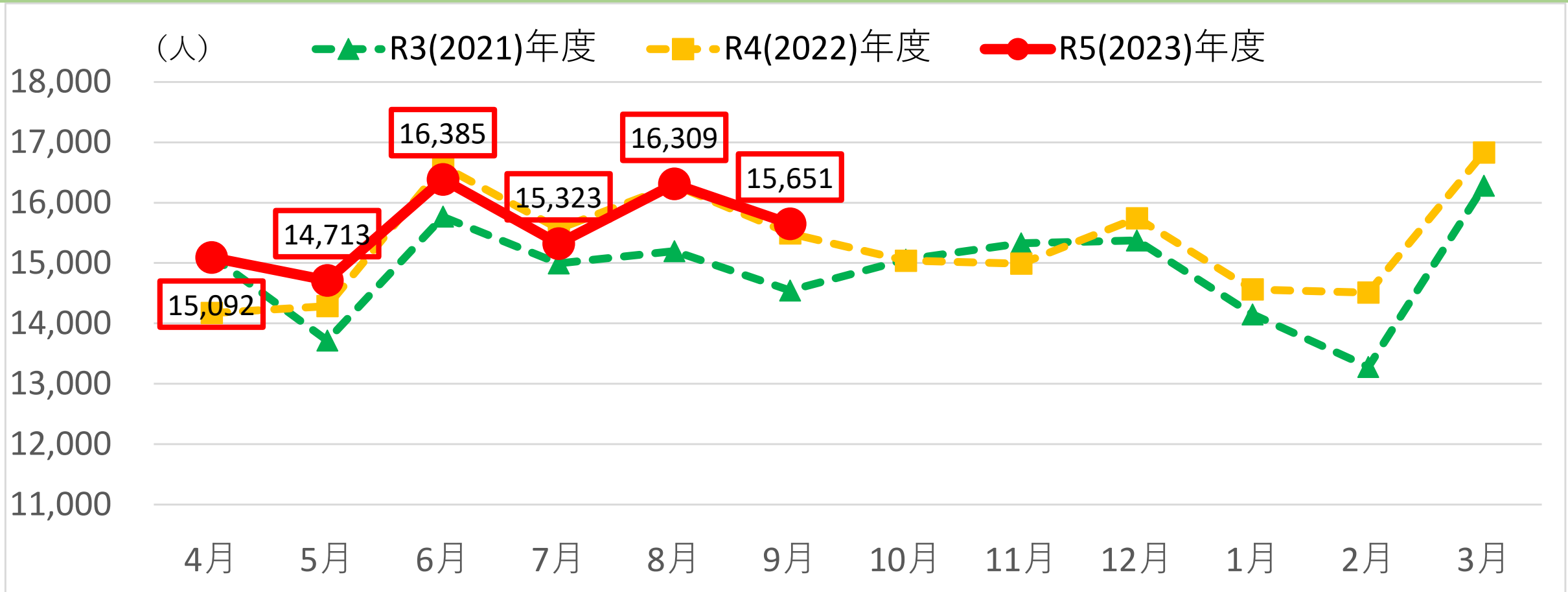
手術件数の推移



令和5年度は、令和4年度より73件減少

令和5年度上半期実績（外来）

外来延患者数の推移



外来延べ患者数は1,055人増加

令和5年度上半期実績（外来）

診療科別外来延患者数比較

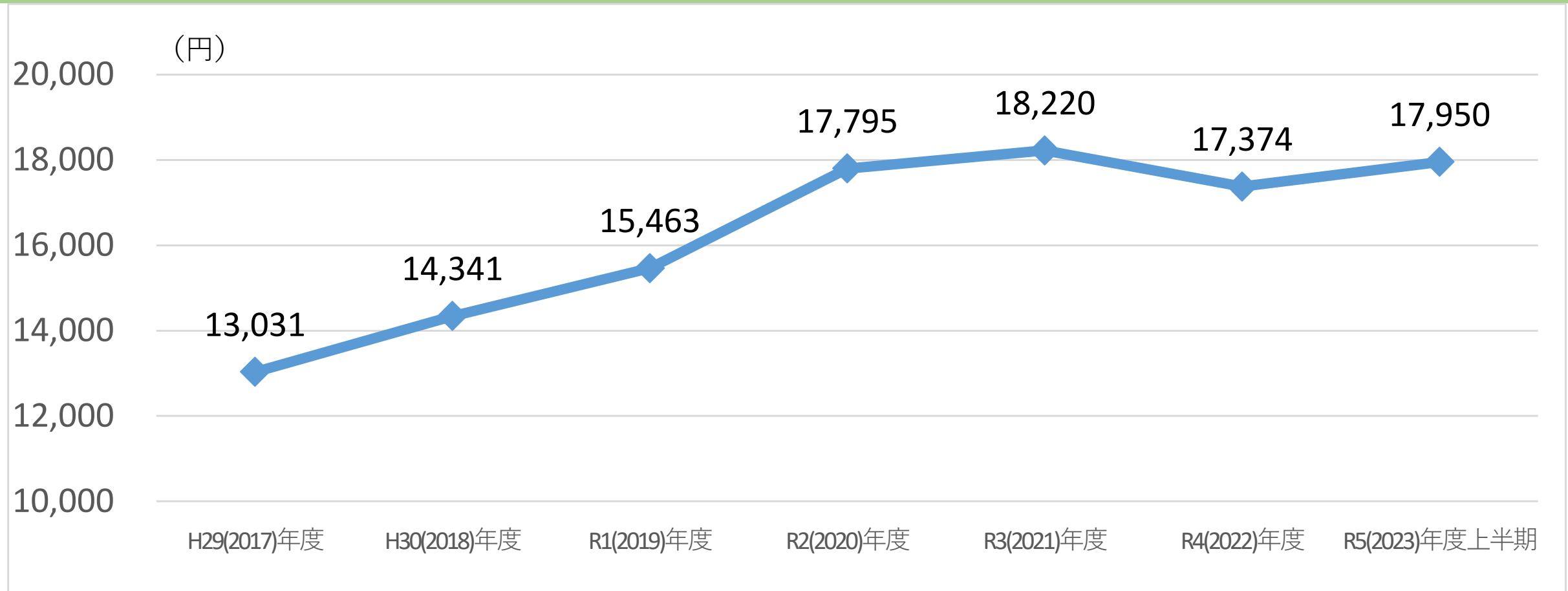
R4-R5患者増減数が大きい診療科

	令和4年度 上半期	令和5年度 上半期	差	備考
病院全体	92,418人	93,473人	+1,055人 (+1.1%)	
形成外科	1,508人	2,364人	+856人 (+56.8%)	常勤医師2人増
呼吸器内科	2,797人	3,551人	+754人 (+27.0%)	常勤医師1人増
脳神経内科	3,625人	4,279人	+654人 (+18.0%)	
循環器内科	5,355人	5,020人	▲335人 (▲6.3%)	
泌尿器科	5,387人	4,948人	▲439人 (▲8.1%)	常勤医師1人減
産婦人科	7,620人	6,972人	▲648人 (▲8.5%)	常勤医師3人減

常勤医師の増減の影響が大きい。

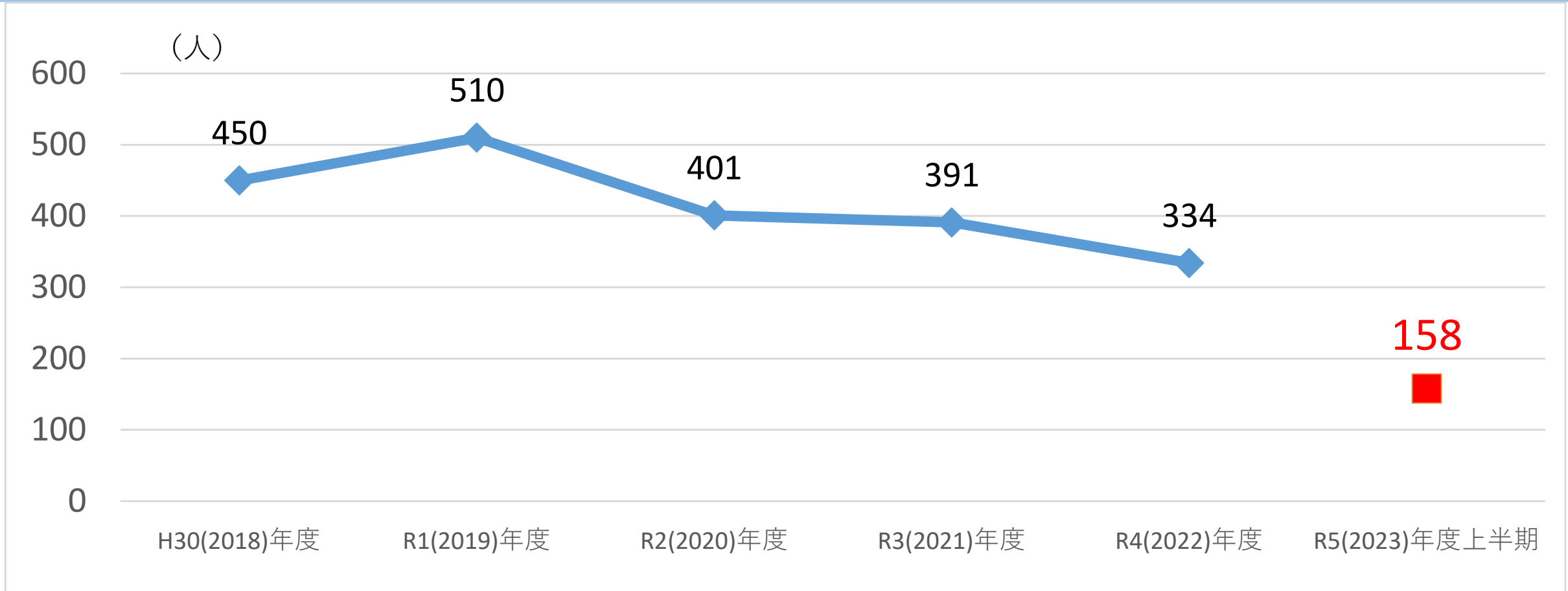
令和5年度上半期実績（外来）

外来診療単価の推移



外来診療単価が増加、注射料の増加が大きい

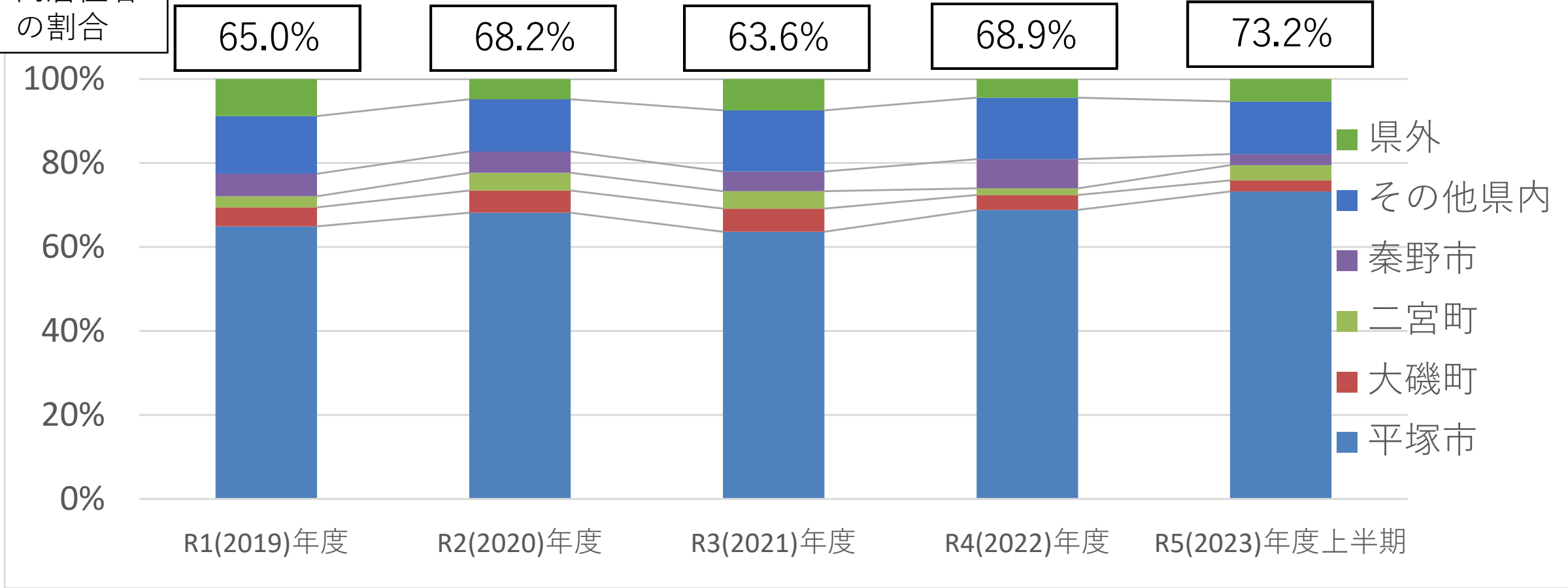
分娩件数（子どもの数）の推移



全国的な出生数の減少により分娩数が減少
前年度上半期比▲23件

居住地別出生数（母体数）の推移

市内居住者の割合



市内居住者の割合が増加

主な経営指標の前年度比較

	令和4年度 上半期	令和5年度 上半期	差
医業収益	58億4,500万円	61億8,200万円	+ 3億3,700万円 (+ 5.8%)
入院収益	42億300万円	44億100万円	+ 1億9,900万円 (+ 4.7%)
外来収益	15億3,800万円	16億7,800万円	+ 1億4,000万円 (+ 9.1%)
医業費用	67億5,500万円	70億3,000万円	+ 2億7,500万円 (+ 4.1%)
給与費	34億2,900万円	35億1,300万円	+ 8,400万円 (+ 2.5%)
材料費	15億6,800万円	17億1,500万円	+ 1億4,700万円 (+ 9.4%)
医業収支比率	86.5%	87.9%	+ 1.4ポイント
経常収支比率	87.8%	95.8%	+ 8.0ポイント

入院診療単価の増加で収益は増加
一般会計負担金の影響で経常収支比率は改善

まとめ

- 新入院患者が増加しましたが、依然としてコロナ前より新入院患者数が少ない状況です。
- 早期にコロナ前の状況に戻す必要があります。
- 特に紹介患者や救急受診患者の増加を図り、新入院患者を増やすことが重要です。